

# 地域社会規模気候学 シンポジウム

異なる研究分野の研究者らが共に  
地球温暖化を考える。

違っていているから新しいものが見えてくる。

2026年  
3月28日  
土曜日

13:00 ~ 16:00

会場地図



会場 TKP横浜会議室 ホール7A

(神奈川県横浜市神奈川区 鶴屋町3-30-8 SYビル 7階)

対象 どなたでも \*高校生以上を想定していますがお子様も保護者同伴でご参加いただけます。

定員 50名程度 **参加費無料**  
(先着順) お申込みはこちらから▶



**YNU**  
横浜国立大学

主催：横浜国立大学 環境情報研究院 令和7年度共同研究プログラムB  
共催：横浜国立大学 地域連携機構 臨海環境センター

<https://forms.office.com/r/xQtm0Ln4br>

# 地域社会規模気候学とは

近年100年間、全球の平均気温が上昇しつつあります。膨大な計算を用いた将来予測によると、21世紀末にはさらに4℃近く上昇する可能性があります。そのような未来に、我々の社会はどのような影響を受け、どのように対応していく必要があるのでしょうか。地球科学、生態学、社会科学の研究者らが集結し、お互いの気候に対する認識を共有することで地域社会規模の温暖化影響を理解しようという活動を始めました。（本課題代表 吉田龍二）

地球温暖化への  
意識は  
研究者の間でも  
異なる？

## プログラム

13:10~13:40 **招待講演1** 杉本 志織 氏（海洋研究開発機構）

「全球温暖化環境下における地域の気候変化」

日本における過去-現在-将来の気温や雨などの変化について最新の自然科学的知見を紹介します。

13:40~14:10 **招待講演2** 栗原 晴子 氏（琉球大学・横浜国立大学）

「海洋生物における温暖化の影響」

海洋の温暖化が進行する中でのサンゴ礁の現状や、生き物たちの変化についての科学的知見を紹介します。

14:10~14:40 **招待講演3** 水井 涼太 氏（(特非)ディスカバーブルー）

「いつまでもこの海と暮らしていくために」

身近な海の姿と温暖化はじめとした課題に関する理解を社会に広めることで、持続可能社会の構築をめざす取り組みを紹介します。

14:50~15:50 **パネルディスカッション**

事前に実施したアンケートをもとに研究者間、研究分野間、学術と社会間の違いとズレを浮き彫りにしたいと思います。

お問い合わせ先：地域社会規模気候学シンポジウム  
連絡窓口 email: ynu-gr-csc@ynu.ac.jp